名古屋国税局長賞

私の税は誰かの笑顔

あま市立美和中学校
３年　大倉　充稀

私の両親は飲食店を営んでいます。朝早くから仕込みをして、夜遅くまで働いてから帰宅します。当たり前ですが、父の料理も母の料理もとても美味しいです。毎日レストランにいるような感覚で、とても幸せです。

そんな美味しい料理をつくってくれる両親ですが、一年に一度、「確定申告」というものを行っています。確定申告とは、一年の収入や経費を全て計算し、そこから税金が算出される一連の作業です。我が家が納めている税金の種類は、所得税、事業税、固定資産税、消費税、自動車税、市県民税などがあり、これら全ての税金をどれだけ納めるのかが確定申告の際に算出され、その金額が指定の銀行を通して引き落とされます。一年分を全て自分達で計算することは大変なので税理士を雇い、手伝ってもらっているそうです。

小さい頃、どうして税金を納めているのかを両親にきいたことがあります。その時父と母はこう言いました。「お父さんとお母さんは、お客さんの笑顔を見るとき、とても幸せになれる。自分たちが作った料理で、誰かが笑顔になれることがとてもうれしい。でも、誰かが笑顔になれる場面はご飯を食べている時だけじゃない。色んなときに、色んな所でたくさん笑顔になれる。充稀にはまだ分からないかもしれないけれど、このお店に来てくれる全ての人が、できるだけたくさん笑顔になれるようお手伝いするために、しっかり税金を納めているんだよ。」そう言って父と母は笑いましたが、その頃の私にはちっとも分かりませんでした。でもある時、自分が持っている教科書の裏面を見て気づいたのです。その教科書は税金を使って私たちに支給されていることに。それからたくさん調べて、色んなことを知りました。私が学校で授業を受けられること。教室にエアコンが設置されたこと。市役所や公共施設に、点字の施された地図やパンフレット、スロープ、手すりがあること。数えだしたらきりがないほどの「当たり前」が税金によって実現されていたのです。両親の言う、「笑顔のお手伝い」とはこういうことだったのかと思い知りました。たった一ヵ所手すりをつけるだけで、笑顔になれる人がいます。たった一台パトカーを増やすだけで、守られる命があります。税金は巡りめぐって、人々の笑顔や命の安全となって返ってくるのです。

年を重ねるうち、私自身が納税する機会が増えてきました。これからもきっと、増えていくでしょう。税率も上がっていくかもしれません。不満を言う人だって増えていきます。でも、それでも私は税金を納め続けます。それは必ず、誰かの笑顔となって返ってきてくれるのです。それを知っているからこそ、今日も私は誰かの笑顔を見る度に、ほんの少しだけ得意気になってしまうのです。